Campus 大学 Topics
キャンパス・トピックス

第3回オープンキャンパスに1,260人が来場

秋晴れの爽やかな10月14日、第3回オープンキャンパスを開催しました。愛知淑徳大学を希望する受験生に、各キャンパスの雰囲気や施設などを実際に体験していただくため、6・7月に引き続き、本年度最後の実施となりました。

本学に関心を抱く来場者はさまざまで、高校1年の時から続けて参加しているという今年受験本番の3年生、お子様が学校行事で来られないからと来校された親御さん、学部は違えど同じ本学をめざしたいという高校生の友人同士など、沢山の方が来場されました。その中でも特に多かったのが、間近に迫ったアドミッションズ オフィス入試Ⅱや公募制推薦入試の受験を考える高校3年生でした。

第1・2回オープンキャンパス同様に、全体説明会や入試相談、学科（専攻）相談、キャンパスツアーなどの企画には多くの参加者が集まっていました。

さらに、第2回オープンキャンパスで実施した『公募制推薦入試対策講座（基礎学力試験〔国語・英語〕、小論文）』の模様を昨年同様にDVD上映した以外に、本年度初めて実施した本学教員による『一般入試対策講座（国語・英語）』にも沢山の参加者が集い、一般入試の問題傾向や出題意図など有益な内容を聞き逃すまいとひたむきな様子が、受講者から窺うことができました。

見学や講義を終えた高校生は、大学への期待と意欲を膨らませ、入学後の自分を重ねているようでした。また、保護者からも高い評価が多く寄せられました。

一般入試対策講座（国語・英語）

学科（専攻）相談

長久手市市が洞地区清掃活動に参加

12月9日、市が洞地区清掃活動に本学の学生17人、職員等23人で参加しました。本学からは親子で参加した職員や本学に関わりのある企業からの特別参加もあり多数の方に来ていただけました。

当日は、幸いにも暖かな日差しに恵まれ、本学からの参加者は全員お揃いの青いジャンパーを着用し、市が洞小学校でのオリエンテーションのあと、3つのコースに分かれて約1時間の清掃活動をおこないました。

親子で参加されている地域のみなさまや小さな子どもたちが一生懸命にゴミ拾いをしている姿を見て、とても温かい気持ちになり、大変充実した時間を過ごすことができました。

これまでも、市が洞学区の夏祭りや、大学祭などを通して地域のみなさま方と交流する機会を持たせていただきましたが、本学の理念である地域に根ざした大学を目指し、今後もますます地域のみなさまとの活動を通じて、信頼関係を深めていければと思います。

第23回卒業生を迎え、ホームカミングデーを開催

Campus Topics
中学校・高等学校

今年で4回目を迎えるホームカミングデーが10月20日に開催されました。

今年は高等学校第23回卒業生（昭和46年3月卒業）が還暦を迎えることとなりました。母校淑徳に還り、近況を語り合って旧交を温め、改めて学校や同窓会とのつながりを深めるきっかけとするという趣旨で、今年も役員や実行委員の方々の手で春から準備がされてきました。

当日は卒業生514人のうち182人の方々と卒業時の担任をはじめとする24人の先生方、同窓会役員18人の参加がありました。第1部はセンテナリーホールにて参加教員の紹介と学園創立60周年の記念映画「淑徳」を上映のあと、エントランス前の階段に勢揃いして記念撮影。

第2部は清明館カフェテリアに移動して会食と懇談。恩師を囲んで昔話に花が咲いていました。還暦といってもみなさん若々しく、40数年前の高校生活を振り返って語り合い、にぎやかな会となりました。いろいろな形で充実した日々を送っておられる方が多く、その中から琴やフラダンス、歌の披露などもあり、内容も盛り沢山となりました。最後に、全員で校歌と「我らの淑徳」を歌い、名残がつきない中、再び会えることを願って散会しました。校舎はすっかり様変わりしてしまいましたが、懐かしいメンバーが集い、貴重なひとときとなりました。

中学校入試説明会に1,000人が来校

中学校の入試説明会が11月17日に行われました。この日は朝から雨が降る生憎の天気でした。そんな中で、午前・午後あわせて約1000人の方々にご来校いただきました。

今年も、午前中は主に小学校6年生対象に行われました。大アリーナで行われた全体会では、吹奏楽部の演奏に引き続いて、校長の挨拶、映画「わたしの淑徳」上映、副校長から出願の注意など入試に関する説明がありました。その後、試験会場の下見を兼ねて教室に移動し、教室のプロジェクターで各教科の平成24年度入試問題解説ビデオを見て頂きました。午後の部は、小学校5年生以下を対象として実施し、ギターマンドリン部の演奏からはじまる全体会と校内見学等の企画が行われました。また、午前・午後ともに、希望者対象の個別入試相談に加え、中高生徒会執行部による「淑徳生に聞いてみよう」という企画も行われました。

午前・午後ともに、保護者の方が熱心にメモを取る姿や、校舎内を興味深く見学する児童の姿を見ることが出来ました。入試本番の2月3日に向けての真剣さが伝わってきました。

大アリーナ全体会

淑徳生に聞こう

Campus 大学 Topics
キャンパス・トピックス

VOID+FORMの建築 VOID from OUTSIDE FORM from INSIDE

都市環境デザインコースでは、9月21日～10月11日の期間、建築家・横関浩氏率いるVOID+FORM（ヴォイドアンドフォルム）建築設計事務所の『VOID+FORMの建築　VOID from OUTSIDE FORM from INSIDE』展を開催しました。ギャラリーには、5体のボックスが、まるで宙に浮いているかのように展示されました。「ボックス人間」と化した鑑賞者たち。ボックスを覗く人々の様子はまるで、そこから身体が生えたかのようでした。この展示は、廊下から横目にみるだけでは全体像をまったく掴むことはできません。小窓からのささやかな光と小模型がある展示面の裏側には、実は、太陽光さえも再現された奥行きのある緻密な建築空間がつくり出されていました。

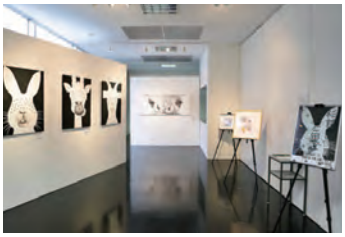
10月13日には、横関氏の講演会『「なぜその形になったのか?」～VOID+FORMの設計のプロセスと視点～』が開催され、横関氏の建築哲学が語られました。横関氏の事務所では、お客様へのプレゼンテーションの際、これでもかと言うくらいスタディ案を提示するそうです。最終的に、建築は一つしか実現できませんが、考案できる限り、いくつもの空間のあり方をみていただくのだそうです。様々な条件下で、なぜこれがベストな空間と言えるのか、お客様が迷わぬようじっくり話し合うのだそうです。

2008年からは、複数の建築家からなる建築設計ユニット「STANDS」を結成し、ディスカッションを重視する体制をさらに強化したということです。選択肢をすべてみせるかたちにするのは、当然に大変な労力を要しますが、それを惜しまないことが横関氏のやり方であると言えそうです。

杉藤由佳展　白と黒と

杉藤由佳さんは、2009年度、都市環境デザインコース卒業の画家です。10月14日～11月1日の期間開催された『杉藤由佳展　白と黒と』は、彼女にとって、母校での二度目の個展となりました。今回の展示作品は、新作を含めた7作品で、鉛筆による精密な動物画がベースでありながら、これまでの作風から発展して「眼」が新たな主題に加わっていました。眼をいくつも持った動物たち。どの眼もまっすぐに見る者を捉えます。私たちの眼球は、白さと黒さを持って色を映し出します。キャンバス上に描かれた白と黒の世界もまた、私たちの眼を通して彩りを想像させるものかもしれません。

10月22日には、デッサンレクチャーを開催しました。本学には、残念ながらデッサンなど基礎造形の授業はありませんので、この機会は待ちに待った時間となりました。90分程度の時間で行われた鉛筆デッサンでは「光を捉える」ことに重きが置かれました。輪郭を捉えるのではなく、光からなるボリュームや、静物の質感を捉える訓練です。参加者は、何より無心で鉛筆を走らせ、90分後には、一人ひとりの特徴が栄えるデッサン画が完成しました。大切なのは、先入観でもののかたちを思い込まないこと。鉛筆の状態一つで、幾通りもの表現がかなうこと。疲労感も心地よく、デッサンの面白さ、作品のお披露目会も含め大勢で行うデッサン会の楽しさを体感しました。



メディアプロデュース学部 都市環境デザインコースが学内ギャラリーにて開催

広瀬 郁氏講演会

現代社会学会およびメディアプロデュース学会では、10月10日、株式会社トーンアンドマター代表取締役の広瀬郁氏を講師にお招きして、『「プロジェクトを総合プロデュースする」クリエイティブ・ヴィジョン』と題した講演会を開催しました。「プロデュース」とは、両学部の学生にとって重要なキーワードの一つです。講演会では、広瀬氏の国内外に亘る活躍より、その真の意義を学びました。

広瀬氏は、ホテルや商業施設など建築・不動産プロジェクトの企画・プロデュースを仕事としており、例えば、東京都目黒の「HotelCLASKA（ホテルクラスカ）」は昭和40年代に開業したホテルのリノベーションと事業再生を、上海の「diage」では築80年のスペイン風洋館を商業施設に再生させました。また、上海万博では、子どもたちの職業体験のためのエデュテインメント施設づくり、札幌のコワーキングスペース「ドリノキ」など、現代の社会動向を柔軟に捉える事業計画で、魅力的な空間づくりを仕掛けています。広瀬氏は、建築やデザインを学ぶことによって習得した『抽象的と現実性の両側面で物事を捉える力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チーム力、空間認識力』を大いに発揮されています。著書には、『建築プロデュース学入門ーおカネの仕組みとヒトを動かす企画』（彰国社）があり、「企画」を創造する力についても強いメッセージをいただきました。講演会中には、「誰のために」を具体化して新たな価値を創造しようというグループワークも実践していただきました。

紙造建築 ―拡張折紙工学―

愛知工業大学で教鞭をとられている建築家・宮本好信先生にご協力いただき、折紙と切紙による空間造形作品を展示いただきました（11月27日～12月13日）。宮本先生は、大変意欲的に活動の幅を広げていらっしゃいます。1960年神戸に生まれ、神戸大学で音響精神物理学に基づいた空間・形態生成設計手法を研究の後、ワシントン大学大学院に交換留学、イプセン・ネルセン建築事務所（シアトル）を経て、神戸大大学院を修了されました。日建設計（東京）の設計部に所属の際は、中国銀行上海ビル、在日ドイツ大使館、東京ミッドタウン・ガレリアなど多くの建築設計を担当されました。大学に籍を移されてからは、折紙と切紙の世界を追求され、ご自身の独自の創作領域を確立されています。また、写真SNSサイトFlickrを通じて宝飾、服飾、工芸からインテリア、建築、航空宇宙まで、幅広い分野と交流されています。

11月30日には、宮本先生と研究室の皆様をお招きし、紙工作ワークショップを開催しました。卓上自動切断機を使って切出したパーツを組立て、様々な球体を製作しました。自分の手で組上げる楽しさ。できあがった作品の造形美。レクチャーからワークショップまで濃密な時間となりました。